

週間感染症情報

2019年37週 2019年9月9日より2019年9月15日まで

| | |
|-----------------|----|
| 麻疹 | |
| 風疹 | |
| 水痘(みずぼうそう) | |
| ムンプス(おたふくかぜ) | |
| 百日咳 | |
| 溶連菌感染症 | 14 |
| 手足口病 | 16 |
| ヘルパンギーナ | 1 |
| 伝染性紅斑 | 1 |
| 感染性胃腸炎 | 16 |
| ロタウイルス(再掲) | |
| 便アデノウイルス(再掲) | 1 |
| 突発性発疹 | 3 |
| 伝染性膿痂疹(とびひ) | 13 |
| ヘルペス性口内炎 | 2 |
| アデノウイルス感染症 | 10 |
| RSウイルス感染症 | 18 |
| マイコプラズマ感染症 | 2 |
| ヒトメタニューモウイルス | |
| インフルエンザ(臨床診断含む) | |
| インフルエンザA | |
| インフルエンザB | |

感冒症状の症例が増えてきました。

36週報告のムンプスは、抗体検査の結果否定されました。ムンプスの流行がなくなり、抗体検査をするようになり、実際にムンプスと診断される症例は少なくなりました。今年度は2例です。ムンプスワクチンも2回接種が必要です。

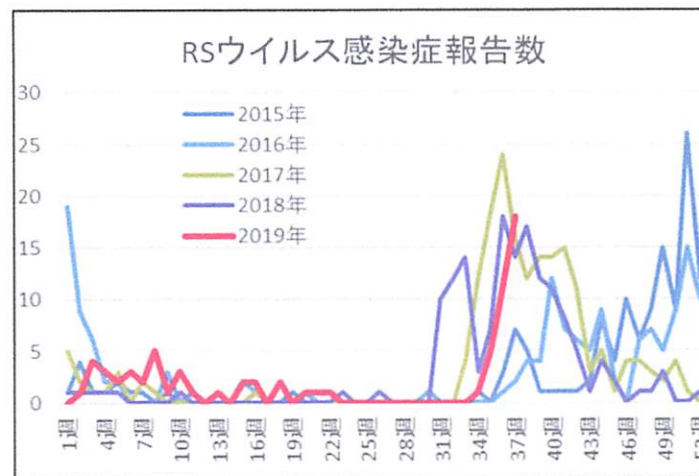
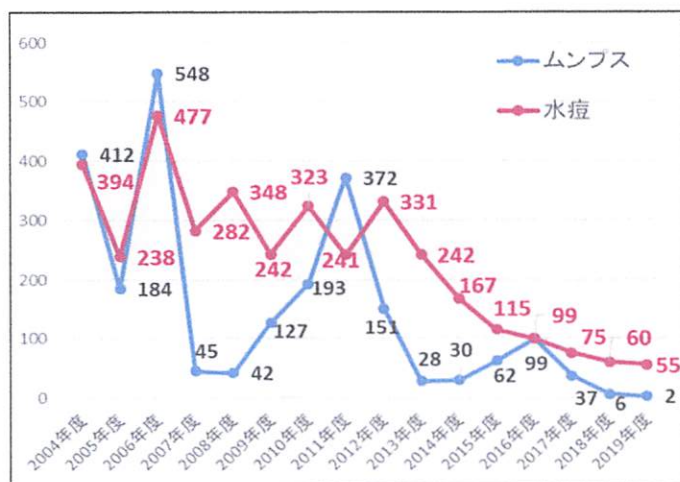
入学前のMRワクチン接種時に同時接種をするようにしましょう。

溶連菌感染症、手足口病の報告は続いています。

伝染性紅斑は、発熱・倦怠感・発疹の高校生でした。白血球・血小板減少があり、顔の典型的な紅斑はありませんでした。

ヒトパルボウイルスB19IgM抗体上昇が確認でき診断しました。成人例では、典型的な頬の紅斑・レース状発疹はないことも多く、診断が困難です。成人で発熱・関節痛・発疹の症例は、鑑別診断にあげることも必要です。

RSウイルス感染症は、市内全域で流行しています。年長児や成人は感冒症状で済みますが、乳児では細気管支炎・肺炎となり入院する例も多いです。37週は6例が紹介入院となっています。



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyakenaika.com> 変更になりました。)